

**ピアaggioグループ:2022年1-9月期
第3四半期としては過去最高の業績を達成**

ピアaggioグループ会長兼 CEO ロベルト・コラニーノは、「マクロ経済は非常に複雑な状況が続いていますが、ピアaggioグループは主にアジア太平洋地域において好調な業績を挙げ、過去最高の業績と二桁成長で2022年の第3四半期を終えました。また、来月インドネシアで始動する新しい生産施設によって、さらに勢いを増すこととなります。当社は、独自の世界的ブランドのポートフォリオを有し、革新的な安全システムや電子機器、エンジンによって、より環境に優しく、より高い性能を発揮する、これまでにない最先端のスクーターとモーターサイクルのラインアップを取揃えています。2022年の最終四半期において、当社は重要な成長プログラムを継続し、投資計画を実施し、ESG問題への取り組みを強化してまいります。」と発表。



- **連結売上高 16 億 2690 万ユーロ、23.3%増**（前年9月30日実績 13 億 1920 万ユーロ）、**第3四半期としては過去最高の業績**
- **産業売上総利益 4 億 2890 万ユーロ、17.3 増**（前年9月30日実績 3 億 6560 万ユーロ）、**売上高純利益率 26.4%**
- **EBITDA 2 億 3670 万ユーロ、22.7%増**（前年9月30日実績 1 億 9290 万ユーロ）、**当該期間で最も好調な業績を達成。EBITDA マージン 14.5%**
- **EBIT 1 億 3490 万ユーロ、38.4%の高い成長率**（前年9月30日実績 9,740 万ユーロ）。**EBIT マージン 8.3%**
- **税引き前利益 1 億 1430 万ユーロ、37.4%増**（前年9月30日実績 8,320 万ユーロ）
- **純利益 7,090 万ユーロ、第3四半期としては過去最高の業績で 37.4%改善**（前年9月30日実績 5,160 万ユーロ）
- **純金融負債 3 億 6990 万ユーロ、前年9月30日実績の 3 億 8030 万ユーロから 1,040 万ユーロの改善**
- **世界出荷台数 490,400 台、13.9%増**（前年9月30日実績 430,600 台）
- **資本的支出 1 億 140 万ユーロ**

ポンテデーラ、2022年10月28日- ロベルト・コラーニーノが議長を務める本日の会議で、ピアッジオ & C. S. p. A. (PIA.MI) の取締役会は、2022年9月30日までの第3四半期時点の事業に関する中間報告書を審査し承認しました。

2022年9月30日現在のピアッジオグループの事業および財務実績¹

グループ連結売上高は16億2690万ユーロとなり、前年9月30日実績の13億1920万ユーロから**23.3%増**、第3四半期としては過去最高の業績となりました。

産業売上総利益は4億2890万ユーロとなり、前年9月30日実績の3億6560万ユーロに比べ**17.3%増加**しました。売上高純利益率は**26.4%**（前年9月30日実績27.7%）となりました。

2022年9月30日までの第3四半期におけるグループ営業費用は**2億9410万ユーロ**となり、売上高および車両販売台数の増加により前年同期比で2,600万ユーロ増加しました。

上述の損益計算書の数値により、連結EBITDAは**2億3670万ユーロ**となり、前年同月比の1億9290万ユーロから**22.7%増加**となり、第3四半期としては過去最高の業績を達成しました。EBITDAマージンは前年9月30日実績と同水準の**14.5%**となりました。

EBITは**1億3490万ユーロ**となり、前年9月30日実績の9,740万ユーロから**38.4%改善**しました。EBITマージンは**8.3%**（前年9月30日実績7.4%）となりました。

第3四半期の税引き前利益は**1億1430万ユーロ**となり、前年9月30日実績の8,320万ユーロから**37.4%増加**しました。当該期間の法人所得税は4,340万ユーロ、税引き前利益への影響は約38%となります。

ピアッジオグループは**7,090万ユーロの純利益**を計上し、2021年度第3四半期の5,160万ユーロから**37.4%増**となり、第3四半期としては過去最高の業績を達成しました。

2022年9月30日現在の純金融負債は**3億6990万ユーロ**となり、2021年12月31日現在の3億8030万ユーロから**1,040万ユーロ改善**、また2021年9月30日現在の3億7270万ユーロから**290万ユーロ改善**しました。

2022年9月30日現在のグループ株主資本は**4億1460万ユーロ**（2021年12月31日現在4億410百万ユーロ）となりました。

第3四半期のピアッジオグループの資本的支出は**1億140万ユーロ**となり、前年同期とほぼ同水準となりました。

2022年9月30日までの第3四半期の事業

2022年9月30日までの第3四半期において、ピアッジオグループは全世界で**490,400台**を販売し（前年同月比の430,600台から**13.9%増**）、連結売上高は**16億2690万ユーロ**を計上しました。すべての地域で

¹ピアッジオグループが採用する主な代替的業績指標は、経営陣がデータを監視しており、以下の通りとする：

- EBITDA: 連結損益計算書に反映される有形固定資産、無形固定資産、使用权に関する償却・減価償却・減損損失控除前の利益(EBIT)。
- 産業売上高総利益: 売上高から販売に要した費用を差し引いたもの。
- 純金融負債: 金融負債総額から現金、現金同等物およびその他の流動金融債権を差し引いたもの。純金融負債の決定には、公正価値の測定から生じるその他の金融資産および負債、ヘッジとして指定された、または指定されていない金融派生商品、関連するヘッジ対象となる商品や関連する会計発生高の公正価値の調整を含まない。

販売台数が増加し、EMEA およびアメリカ大陸で 4.6%、インドで 7.5%、アジア太平洋地域の二輪車で 39.8%増加しました。

二輪車：

2022 年 9 月 30 日までの第 3 四半期において、ピアッジオグループは全世界で 410,000 台の二輪車を販売し（2021 年 9 月 30 日現在の 366,000 台から 12%増）、純売上高 13 億 3890 万ユーロを計上し、前年同期の 11 億 1020 万ユーロから 20.6%増を達成しました。

この数字にはスペアパーツやアクセサリ類が含まれており、その売上高は 1 億 1720 万ユーロに達し、前年同月比の 1 億 580 万ユーロから 10.8%増加しました。

二輪車の売上は、特にアジア太平洋地域が好調で（55.1%増）、次いでアメリカ大陸（44.4%増）、EMEA（ヨーロッパ、中東、アフリカ）地域（7.7%増）となり、インドの二輪車市場は堅調に推移しています（1%増）。

ヨーロッパでは、ピアッジオグループは 23.5%（2021 年度第 3 四半期では 23.1%）のシェアを占めるスクーターセグメントにてリーダーシップを発揮し、また 34.9%（2021 年 9 月現在では 34.5%）のシェアを占める北米のスクーター市場にて強固なポジションを維持しています。また北米では、当グループはアプリリアとモト・グッツィのブランドでモーターサイクル市場での存在感を高める取り組みをしています。

スクーター部門は売上高が 2 桁の伸びを示し、特に 9 ヶ月間の販売台数が過去最高となったベスパブランドと、アプリリアのスクーターが牽引しました。

モーターサイクルの業績も非常に好調で、アプリリアとモト・グッツィの両ブランドは、年初来 9 ヶ月間で過去最高の販売台数と売上高を達成しました。660cc エンジンを搭載した新型アプリリア RS およびアプリリア トゥオーノ、そしてモト・グッツィ V7 および V85TT が市場で大きな反響を呼びました。

商用車：

商用車では、ピアッジオ・グループの販売台数は 80,300 台（2021 年 9 月 30 日現在 64,600 台に対して 24.4%増）、売上高は 2 億 8800 万ユーロ（2021 年 9 月 30 日現在 2 億 910 万ユーロから 37.8%増）となりました。この数字にはスペアパーツやアクセサリ類が含まれており、その売上高は 4,450 万ユーロに達し、前年同期の 3,420 万ユーロから 30.1%増加しました。

地域別では、インド市場は再び活気を取り戻し、商用車の売上高は 56.7%増加し、販売台数も 37.4%増加しています。

PVPL 子会社は、インドの三輪車市場全体で 19.4%のシェアを占め、カーゴセグメントでは 33%のシェアを獲得し、強固なポジションを維持しています。

ピアッジオ・ファストフォワード：

ピアッジオ・ファストフォワード（PFF）は、ピアッジオグループのロボティクスとフューチャーモビリティを担うポストンを拠点とする会社であり、革新的な「兄貴分」である gita®のテクノロジーと機能をより軽量でコンパクトなデザインに凝縮した新型ロボット gitamini®を追加し、製品ラインナップを拡充しました。

Gita®と gitamini®は、ボストンのチャールスタウン地区にあるピアッジオ・ファストフォワード工場で作られています。このロボットのマーケティング初期段階では、市街路でのロボットの巡回がすでに整備されている米国市場に焦点を合わせています。

PFF は、様々な分野で活躍するパートナーと共に一連のパイロットプログラムを実施し、旅行や住宅、小売、ラストワンマイルデリバリーにおいて、gita®のさらなる応用を検証しています。また、PFF はナスダック上場企業であるトリンプル社と、産業用途で人間や他のデバイスに追従するロボットや機械の開発に向けた合意書の締結を発表しました。

PFF は革新的な技術を搭載したセンサーを設計・開発し、ピアッジオの新型 3 輪スクーターMP3 を発表したことで、未だかつてない安全性を実現しました。高度なライダーアシスタンスシステム (ARAS) の統合により、この新型センサーは事故防止とライダー保護において重要な役割を果たしています。

2022 年度第 3 四半期およびそれ以降の重要イベント

本項では、上記または 2022 年 6 月 30 日付中間報告書の承認時 (2022 年 7 月 28 日開催の取締役会) に公表した情報を補足し、2022 年度第 3 四半期およびそれ以降の重要イベントを説明します。

9 月 2 日、新型アプリリア RSV4 XTrenta を発表。このモデルは、アプリリアの選手権初優勝から 30 周年を記念して、アプリリアレーシングのエンジニアリングと MotoGP のテクノロジーを組み合わせた特別仕様で、100 台限定車両となります。

9 月 8 日～11 日、マンデッロ・デル・ラーリオにて GMG (Giornate Mondiali Moto Guzzi) の 100 周年記念イベントを開催し、モト・グッツィ バイクの大ファンである英国俳優ユアン・マクレガー氏をはじめ、世界中から 6 万人以上のグッツィバイカーが集結しました。

9 月 21 日、空母カヴールの飛行甲板という壮大な舞台上、モト・グッツィ V100 マンデッロ アヴィアツィオーネ・ナヴァーレの世界内覧会を開催しました。このモデルは、モト・グッツィとイタリア海軍の特別な絆を記念した、モト・グッツィの最新モデルの中でも特別限定モデルとなります。

10 月 5 日、ベスパ GTS の新ラインナップとなるクラシック・ベスパ GTS、モダン・GTS スーパー、エネルギー・GTS スーパースポーツ、ハイテク・ベスパ GTS スーパーテックの 4 種類のバージョンを発表しました。

* * *

ロシア・ウクライナ危機

ピアッジオグループは、世界経済やインフレによる物価上昇に大きな影響を与える原材料やエネルギーコストの上昇を引き起こし、また欧米の中央銀行が金利引き上げに至った、ロシア・ウクライナ紛争の動向に細心の注意を払い続けます。当グループの売上および調達先は広範な地域に分散されているため、紛争地域のリスクに晒される可能性は実質的にありません。戦争による間接的な影響については、特にヨーロッパの工場でエネルギーや原材料の価格上昇の影響を受けていますが、仕入先との契約により一部緩和されています。

見通し

2022 年度第 3 四半期は、新型コロナウイルスによるパンデミックとロシア・ウクライナ紛争の進展に本質的に起因する、複雑なマクロ経済状況が特徴的でした。この紛争は国際的に地政学的な緊張をもたらし、輸送コストの上昇、原材料価格の上昇、さらにエネルギーコストの急激な上昇の原因となりました。しかしながら、ピアッジオは独自のブランドポートフォリオによって、事業および財務構造の効率的かつ柔軟

な管理を常に注視しながら、2022 年度第 4 四半期も成長路線を継続し、新製品や新施設への計画投資を実施し、ESG 問題への取り組みも強化する予定です。

取締役会では、国内外における機関関係に関する権限をマッテオ・コラーニーノ副会長に委譲しました。

アナリストとの電話会議

2022 年 9 月 30 日現在および 9 ヶ月間の決算結果は、金融アナリストとの電話会議を通して解説を行い、また当社ウェブサイトからご覧いただけます：www.piaggiogroup.com/it/investor

ピアッジオ S. p. A. の発表では、2022 年 9 月 30 日現在および 9 ヶ月間の中間報告書を、2022 年 11 月 14 日までに「eMarket STORAGE」公証保管機構（www.emarketstorage.com）に登録された法人の登記事務所、および発行者のウェブサイト www.piaggiogroup.com（「投資家／財務報告書／2022」のセクション）にて発表し、一般公開予定となります。

2022 年 9 月 30 日現在および 9 ヶ月間のピアッジオグループの連結損益計算書、連結財政状態計算書、連結キャッシュフロー計算書は以下に記載。

法人会計および書類作成の管理責任者であるアレッサンドラ・シモノットが、立法政令 no. 58/1998（連結財政法）第 154 条の 2 項に従い、当該計算書の会計開示が会計書類、元帳および記載事項と一致していることを証明しています。

2015年10月5日付 ESMA/2015/1415ガイドラインの勧告に従い、本プレスリリースには、IFRSで未だ定められていない（「非GAAP指標」）ものの、IFRSで想定された財務指標に基づく多くの指標が含まれていることに留意する必要があります。これらの指標は、グループの業績評価を支援するために提示されたものであり、IFRSで想定された指標の代替となるものではありませんが、ピアッジオグループの2021年度年次報告書および四半期、半期報告書の指標と一致しています。さらに、かかる指標の決定はIFRSで特に規制されていないため、採用された方法は他の企業/グループが採用している方法と一致しない場合があり、その結果、当該指標を比較できない可能性があります。2009年9月16日付Consob（イタリア国家証券取引委員会）コミュニケーション第9081707号に準じて、代替的業績指標（「非GAAP指標」）は独立監査人による監査を受けておらず、また本書に添付された会計明細書も監査を受けていません。

本プレスリリースには、将来的な出来事、ピアッジオグループの事業および業績に関する将来予想の記述が含まれている可能性があります。その性質上、これらの記述は将来発生する、あるいは発生しない可能性のある事象に関連し、また状況に因るため、内在リスクと不確実性が伴います。実績は、様々な要因の結果として、かかる計算書で示されたものと著しく異なる可能性があります。

◇報道関係者お問い合わせ先:
ピアッジオグループジャパン株式会社
〒108-0073 東京都港区芝2-12-10 タカナミビル1階
PRマーケティング: 河野 僚太 (こうの りょうた)
E-Mail press@piaggio.co.jp
代表電話 03-3454-8880 FAX 03-3454-8868

Piaggio Group Corporate Press Office
Director Diego Rancati
Via Broletto, 13 - 20121 Milan - Italy
+39 02.319612.19
diego.rancati@piaggio.com

Image Building
Via Privata Maria Teresa, 11 - 20123 Milan - Italy
+39 02 89011300 - piaggio@imagebuilding.it

Piaggio Group Investor Relations
Director Raffaele Lupotto
Viale Rinaldo Piaggio, 25
56025 Pontedera (PI)
+39 0587.272286
investorrelations@piaggio.com
piaggiogroup.com